

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)



幸せを運ぶ
トリーミー

十三の応援団長
とみやん

大阪市立十三中学校

令和8年2月

校訓

純真明朗 敬愛互譲 歓喜力行

学校教育目標

めざす子ども像

- ・ 自ら考え行動できる子ども
- ・ 前向きに努力できる子ども
- ・ 心を大切にできる子ども

めざす教職員像

- ・ 範を示す
- ・ 力を合わす
- ・ 共に学ぶ

めざす学校像

- ・ みんなの居場所となる学校

教育方針

生徒の共通理解を深めるため、教職員の研修活動を活発にし、日々の教育活動の場でその実践化を図り、教職員相互の主体性と独自性を尊重する。

- 1 きめこまかな生徒理解を通じて、能力・適性を把握し、生徒一人一人の可能性を最大限に開発する。
- 2 進路指導にあたっては、結果よりも困難を開拓していく努力の過程を尊重する中で自己決定をさせる。
- 3 相互の開きあった人間関係・人間理解を通じて、共に変容するなかから規律ある集団の育成を図る。
- 4 生命の畏敬と心身の健全な成長をはかるとともに、自発的・能動的な相互協力によって環境の美化と安全に努める態度を養う。

大阪市立十三中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学校現状について

・ 予防的な教育実践を体系的に実践することで、安心・安全な教育環境の中で教育活動を進めることができている。特に、望ましい行動を強化するための教育の枠組みである「学校規模ポジティブ行動支援(SWPBS)」の実践により、目標とする行動が明確になり、生徒の望ましい行動を引き出すための強化週間が設けられるなど、日々の生活の中で生徒の「できた・やった」を引き出す機会が増加している。その結果、相対的に課題となる行動が減少傾向にあり、前向きな学校風土と文化が醸成されつつある。また、令和5年度からは心の不調を予防するための社会・情動的なスキルを学ぶ「ころあつぷタイム+」も導入され、生徒の心理・行動面への指導・支援の充実にも力を入れている。

学力面では、全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテストの結果が改善傾向にあることが確認されている。これは、基礎学力の定着を図った朝学習の取り組みや各教科におけるICT機器利用の向上など複合的な要因が効果につながったと推察される。

○課題として

不登校生徒が高い水準にあり、心理的困難さを抱えた生徒が少なくない現状がある。これは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会全体の大きな変化が生徒の学び方を変え、漠然とした不安を高める要因になったのではないかと推察される。現在、各生徒のニーズに基づいた切れ目のない支援を行うため、福祉の専門家や大学との連携を行い、より効果的な指導・支援の実施が可能となっている。昨年度より、校内登校支援チームを発足し、定期的な家庭訪問をより安定して実施することで、生徒との「つながり」を大切にする校内支援体制の充実をめざしている。また、生徒のいじめに対する意識調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合が77.6%とやや低い水準となっている。いじめ予防の取り組みを体系的かつ断続的に実践し、より良い生徒集団の形成にも力を注ぐ必要がある。

これらの結果から、令和6年度より十三中学校における「めざす子ども像」の頭文字をとった「自・前・心」、「めざす教職員像」の頭文字をとった「範・力・協」に改訂し、個別最適な指導・支援の充実、教育環境の見直し、組織的な教育活動の推進に努め、「みんなの居場所となる」学校としての機能を高めるための取組を実施しており、今年度も引き続き継続しながら、中期目標・年度目標の達成をめざす。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- ・ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を、82%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より0.01ポイント向上させる。

	令和5年度	令和6年度
国語		令和6年度1年生59.2点(対府比 1.01)
	令和5年度1年生61.1点(対府比 1.00)	→ 令和6年度2年生67.6点(対府比 1.03)
	令和5年度2年生64.9点(対府比 0.97)	→ 令和6年度3年生63.6点(対府比 0.98)
数学		令和6年度1年生54.1点(対府比 1.08)
	令和5年度1年生55.8点(対府比 1.02)	→ 令和6年度2年生52.1点(対府比 1.02)
	令和5年度2年生48.8点(対府比 0.93)	→ 令和6年度3年生46.2点(対府比 0.94)

- ・ 令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、56%以上にする。
- ・ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童(生徒)の割合を55%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 令和7年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童(生徒)の割合を、100%にする。
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1および基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末には、基準1を56.4%、基準2を84.9%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、80%以上にする。
〔令和6年度 77.6%〕〔令和7年度 83.9%〕
- ・年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。〔令和6年度 81.3%〕〔令和7年度 84.4%〕
- ・本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォンなどを使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3 時間以上と回答する生徒の割合を50%以下にする。〔令和6年度 53.2%〕〔令和7年度 51.4%〕
- ・年度末の校内調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。〔令和6年度 80.9%〕〔令和7年度 83.3%〕

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より0.01ポイント向上させる。
〔令和6年度3年生 国語0.98 数学0.94〕〔令和7年度3年生 国語0.98 数学1.03〕
〔令和5年度2年生 国語0.97 数学0.93〕〔令和6年度2年生 国語1.03 数学1.03〕
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル(英検 3 級相当以上の英語力を有する中3生の割合(4技能)を56%以上にする。〔令和6年 49.0%〕〔令和7年度 58.4%〕

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
〔令和6年度 28.9%〕〔令和7年度 37.2%〕
- ・教職員の働き方改革に関する目標として、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1・2を満たす教員の割合の基準1を56.4%以上かつ基準2を84.9%以上にする。
〔令和6年度 基準1 47.6% 基準2 69.0%〕
〔令和7年度 基準1 59.5% 基準2 83.3%〕

3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」においては、いじめに対する意識は、昨年度より向上した。学校生活の楽しさについても改善傾向にある。SWPBSの実践や様々な取組の充実により、安心できる学校風土の醸成が進んでいる。一方で、不登校生徒の在籍比率は依然として高い水準にあり、心理的困難を抱える生徒への継続的かつ組織的な支援体制が課題である。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」においては、数学や英語で向上が見られた。朝学習やICT活用の取組が一定の成果につながっていると考えられる。一方、体力・運動習慣に繋がる朝食摂取率には課題が残り、生活習慣の改善に向けた継続的な働きかけが求められる。

「学びを支える教育環境の充実」においては、学習者用端末の活用率は向上したものの目標には達しておらず、教育DXのさらなる推進が必要である。

本年度は多くの項目で改善・向上が見られ、前向きな成果をあげることができた。一方、登校支援の強化、自己肯定感の向上、ICT活用の定着、生活習慣の改善が次年度の重点課題である。

(様式2)

大阪府立十三中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、80%以上にする。 〔令和6年度 77.6%〕〔令和7年度 83.9%〕 校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。〔令和6年度 81.3%〕〔令和7年度 84.4%〕 本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォンなどを使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する生徒の割合を50%以下にする。〔令和6年度 53.2%〕〔令和7年度 51.4%〕 校内調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。〔令和6年度 80.9%〕〔令和7年度 83.3%〕 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現	
<p>取組内容①【1-1 いじめへの対応 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ予防プログラムである「私たちの選択肢」を活用し、1年生では「脱いじめ傍観者教育」、2年生では「ハウレンソウ教育」、3年生では、「多様な性を理解する教育」を実施し、いじめ予防に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 【人権・道徳委員会 人権教育担当】〔令和6年度 77.6%〕 	A
<p>取組内容②【1-2 不登校への対応 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> SC,SSW、子どもサポートネットなどの専門家や支援者との情報共有会議を月に1回以上実施し、切れ目のない支援を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 【登校支援担当】〔令和6年度 9.75%〕〔令和7年度 9.11%〕 	B
<p>取組内容③【1-3 問題行動への対応 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの望ましい行動を引き出すための教職員から生徒への賞賛機会の充実を狙った「JUM活」を実施する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「問題行動」の下位尺度の学校平均値が先行研究の平均値(2.3%)よりも下回る。 【生活指導部 PBS担当】〔令和6年度 1.6%〕 	B
<p>取組内容④【1-5 防災・減災教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の防災リーダーと連携し、防災マップをもとに災害時の注意点と対応についての 	

<p>学習機会を設け、防災意識の向上を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年で地域と連携した防災体験学習を実施するとともに、全学年での年間2回の避難訓練等を通して防災意識を高める。 <p style="text-align: right;">【健康教育部 健康教育部長】〔令和6年度 避難訓練 3回実施〕</p>	A
<p>取組内容⑤【1-6 安全教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に1回、梅田少年サポートセンターを外部講師として招き、防犯教室を開講し、ネットトラブルをきっかけに起こる事件やトラブルについての学習を行う。また、情報モラル教育の年間指導計画を作成し、情報モラル教室について各学年が年に1回実施する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を98%以上にする。 <p style="text-align: right;">【生活指導部/情報委員会 情報委員長】〔令和6年度 98.0%〕</p>	A
◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成	
<p>取組内容①【2-1 道徳教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らがかけがえのない大切な存在であると実感できるよう、学校教育活動だけでなく、家庭・地域等との連携を図り、生徒の自尊感情を高め、他者を思いやる気持ちを育む。そのため、校内研究授業を行い教員の授業力向上に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を85%以上にする。 <p style="text-align: right;">【人権・道徳委員会 道徳推進教師】〔令和6年度80.9%〕</p>	B
<p>取組内容②【2-2 キャリア教育の充実 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> SP トランプなど、自己の職業観・適性について探求し、進路実現を図るとともに将来の職業に対する見通しを持つことができるようにするために、3年間を見据えたキャリア教育を実践する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> Hyper Q-Uを活用した校内調査において、3年生の「進路意識」の項目の平均値で前年度値を下回らないようにする。 <p style="text-align: right;">【教務部 キャリア担当】【Hyper Q-U, 進路意識】〔令和6年度 15.3点〕</p>	B
<p>取組内容③【2-3 人権を尊重する教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの違いを認め合い、共に成長する生徒集団を育むため、人権尊重の精神をもって指導・支援にあたる教職員の文化と風土を醸成する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。 <p style="text-align: right;">【人権・道徳委員会 人権教育主担】〔令和6年度 79.9%〕</p>	A

<p>取組内容④【2-4 インクルーシブ教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <p>・ 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援が提供できるよう、通常学級担当者と特別支援学級担当者と通級指導担当者が、個別の支援計画や、指導計画などをもとに連携し、学びの確保をする。</p>	A
<p>指標</p> <p>・ 組織の改編を行うとともに、学期ごとに最新の特別支援学級生徒の情報を共有する。さらに、年に2回以上の教職員研修を開催する。</p> <p style="text-align: center;">【特別支援委員会 特別支援コーディネーター】〔令和6年度 2回実施〕</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】	
◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現	
取組内容①【1-1 いじめへの対応】	【人権・道徳委員会 人権教育担当】
校内調査の割合は目標を達成しているが、いじめについての学習は取り組めていない。	
取組内容②【1-2 不登校への対応】	【登校支援担当】
情報共有会議については月に1回以上の頻度で行うことはできなかったが、必要に応じて適宜行った。全校生徒に対する不登校生徒の在籍比率は前年度より2学期末時点で-0.64%であり、現時点では指標を上回っているが、年度末の校内調査が未実施で数値での成果がわからないためB評価。	
取組内容③【1-3 問題行動への対応】	【生活指導部 PBS担当】
JUM 活の挨拶編・チャイム着席編を計4回実施できた。年度末の校内調査が未実施のため、数値での成果がわからないためB評価。	
取組内容④【1-5 防災・減災教育の推進】	【健康教育部 健康教育部長】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災リーダーと連携し、防災マップをもとに災害時の注意点と対応についての取り組みを、1年生で実施した。 ・ 火災の避難訓練と地震・津波の避難訓練を、各1回計画し、実行した。 (火災の避難訓練は6月18日、地震・津波の避難訓練は11月7日) 	
取組内容⑤【1-6 安全教育の推進】	【生活指導部/情報委員会 情報委員長】
「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」の目標指標の98%を超えて、99.4%の生徒が肯定的な意見を述べた。	
◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成	
取組内容①【2-1 道徳教育の推進】	【人権・道徳委員会 道徳推進教師】
2学期実施の校内調査「自分にはいいところがありますか」において、肯定的回答が83.3%で1.7ポイント足りなかった。昨年度からは2.4ポイント上がっている。教科道徳の授業も各学年、時数を確保した。	
取組内容②【2-2 キャリア教育の充実】	【教務部 キャリア担当】
2学期に2年生のキャリア学習、1年生のSPトランプを含め、キャリア学習を行った。また、2年生では、14歳のハローワークとして、調べ学習を行い、進路や職業に対する関心を高めながら、3年生の進路学習を含め、昨年度と同水準の15.4点を記録することができた。	
取組内容③【2-3 人権を尊重する教育の推進】	【人権・道徳委員会 人権教育担当】
校内調査の割合は目標を達成することができている。また2学期に多国籍生徒への人権学習を実施し、一人ひとりのちがいを知り、大切にす気持ちを深めていくことができた。	
取組内容④【2-4 インクルーシブ教育の推進】	【特別支援委員会 特別支援コーディネーター】
4月当初に情報共有や、障がいについての共通理解などを深める職員研修を行った。11月には、特別支援学級担任対象に、発達検査等の研修を行い、子ども理解を深め、広めていく。	

次年度への改善点	
◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現	
取組内容①【1-1 いじめへの対応】 学期に1回実施できるよう調整をする。	【人権・道徳委員会 人権教育主担】
取組内容②【1-2 不登校への対応】 次年度も校内の生徒の居場所の拡充を図るために、登校支援室の継続的運用が必要である。個々の生徒が持つ支援ニーズを的確かつ円滑にアセスメント可能にするための頑健な校内組織及び体制の構築がさらに必要であると考えます。	【登校支援担当】
取組内容③【1-3 問題行動への対応】 ポジティブ行動マトリクスをより現状の生徒の困り感やニーズに合わせたものに改定することで、次年度のJUM活を実態に沿った取り組みに改良していく。	【生活指導部 PBS 担当】
取組内容④【1-5 防災・減災教育の推進】 ・今年度、避難訓練は年2回行ったが、防災・減災の観点から年3回にしたほうが良いという意見を頂いた。年3回実施する場合、訓練内容と日程を精査する必要がある。	【健康教育部 健康教育部長】
取組内容⑤【1-6 安全教育の推進】 3学期は、1, 2年生対象の情報モラル教育を実施した。来年度は、3学年揃っての情報モラル教育を年2回を目標に実施したい。	【生活指導部/情報委員会 情報委員長】
◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成	
取組内容①【2-1 道徳教育の推進】 自らがかけがえのない大切な存在であると実感できるよう、学校教育活動だけでなく、家庭・地域等との連携を図り、生徒の自尊感情を高め、他者を思いやる気持ちを育む。そのために、校内研究授業を行い教員の授業力向上に努める。	【人権・道徳委員会 道徳推進教師】
取組内容②【2-2 キャリア教育の充実】 今年度の2年生は進路意識の項目が15.1点と3年に近い水準となっている。2年次の意識を3年に維持、継続しながら、さらなる数値を獲得するための進路指導を行っていく。	【教務部 キャリア担当】
取組内容③【2-3 人権を尊重する教育の推進】 学期に1回実施できるよう調整をする。	【人権・道徳委員会 人権教育主担】
取組内容④【2-4 インクルーシブ教育の推進】 特別支援に在籍している生徒の発達検査結果などをもとに、委員会からの巡回及び研修を行い、子ども理解を行った。さまざまな意見交換や疑問点などを話し合いながら、検査の種類や、見方などの理解を深めた。	【特別支援委員会 特別支援コーディネーター】

(様式2)

大阪市立十三中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>〔令和6年度3年生国語 0.98 数学0.94〕〔令和7年度3年生国語 0.98 数学 1.01〕</p> <p>〔令和5年度2年生 国語0.97 数学 0.93〕〔令和6年度2年生 国語 1.03 数学 1.03〕</p> <p>・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル(英3級相当以上の英語力を有する中3生の割合(4技能)を56%以上にする。</p> <p>【大阪市英語力調査】〔令和6年度49.0%〕〔令和7年度 58.4%〕</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <p>取組内容①【4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <p>・基礎学力の定着に向けて、多様な学習体験を統合した小中学校向けの新たなICT学習サービス「navima」を活用し、個別最適な朝学習の充実を図る。また、各教科指導においても活用することで生徒の学習習慣の定着に努める。</p> <p>指標</p> <p>・年度末の学習者用端末利活用状況において、朝の学習時間等にnavimaを活用した自学・自習の平均ログイン回数を4回以上にする。</p> <p>【学力向上委員会 学力向上委員長】〔令和6年度 2.9回〕</p>	B
<p>取組内容②【4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <p>・各教科においてグループ学習や発表機会を設けることで生徒間の言語活動を活性化させ、他者の意見からの学びとともに自身の考えを広げることができる。</p> <p>指標</p> <p>・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的回答をする生徒の割合を55%以上にする。</p> <p>【学力向上委員会 学力向上委員長】〔令和6年度 50.8%〕</p>	B
<p>◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成</p> <p>取組内容①【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <p>・適切な課題設定や課題の選択肢を自己の能力に応じて決定する機会を設けるなど、個別最適な学習環境を整える。</p> <p>指標</p> <p>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。</p>	B

【保健体育科 保健体育科主任】〔令和6年度 52.9%〕	
<p>取組内容②【5-2 健康教育・食育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <p>・保健体育科、家庭科などの学習や長期休業前の健康面の講話などを通じて、規則正しい生活習慣を身に着けるとともに朝食をとる習慣を高める。</p>	B
<p>指標</p> <p>・全国学力学習状況調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">【給食委員会 食育担当(保健主事)】〔令和6年度 89.8%〕</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上	
取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】【学力向上委員会 学力向上委員長】	2学期実施の授業アンケートより「話し合い活動の時間確保」で学校平均3.36であった。
取組内容②【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】【学力向上委員会 学力向上委員長】	2学期12月学校アンケートより「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」で、全学年の平均が55.4%であった。
◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成	
取組内容①【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】【保健体育科 保健体育科主任】	1学期の校内調査での全体の最も肯定的な回答は58.6%であった。 12月実施の校内調査では最も肯定的な回答が53.7%であった。
取組内容②【5-2 健康教育・食育の推進】	【給食委員会 食育担当(保健主事)】
<p>・1学期実施の校内調査において、肯定的回答が89.9%であった。</p> <p>・2学期実施の校内調査において、肯定的回答が89.8%であった。</p>	

次年度への改善点	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上	
取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】【学力向上委員会 学力向上委員長】	2学期学校アンケートより「朝の学習時間に navima を活用した自学・自習をおおむね週に1回は実施できている」で全体が62.7%の生徒があてはまると回答している。
取組内容②【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】【学力向上委員会 学力向上委員長】	2学期学校アンケートより「先生は、授業内容や教え方を工夫している」で全学年の68.9%があてはまると回答している。来年度も数値の向上をめざし、相互授業参観を実施して、教員の授業力の向上に取り組む。
◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成	
取組内容①【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】【保健体育科 保健体育科主任】	目標の55%に対して、12月実施の校内調査では53.7%と下回った。 来年度以降も目標達成に向けて、授業改善を行なっていく。
取組内容②【5-2 健康教育・食育の推進】	【給食委員会 食育担当(保健主事)】
<p>次年度は、生徒保健委員会を通じて朝食に関するアンケートを行い、結果などを掲示・共有できるようにし、朝ごはんを食べる生徒の数を増やす。</p>	

(様式2)

大阪市立十三中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 〔令和6年度28.9%〕〔令和7年度 37.2%〕 ・教職員の働き方改革に関する目標として、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1・基準2を満たす教員の割合の基準1を56.4%以上、基準2を84.9%以上にする。 〔令和6年度 基準1 47.6% 基準2 69.0%〕〔令和7年度 基準1 54.8% 基準2 81.0%〕 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進	
<p>取組内容①【6-1 ICTを活用した教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育研修会を実施し、ICT活用に関する基礎的な知識の向上に努める。 ・百問繚乱を普及させ、採点業務の省力化を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報委員会主催の学習者用端末の活用方法にかかわる研修会を年に1回実施する。 【情報委員会 情報委員長】〔令和6年度 1回実施〕 	B
<p>取組内容②【6-1 ICTを活用した教育の推進 自・前・心 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学活で心の天気の入力をさせ、生徒のメンタルヘルス面の現状把握に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」の登録状況率を70%以上にする。 【情報委員会 情報委員長】〔令和6年度 37.7%〕 	B
◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり	
<p>取組内容③【7-1 働き方改革の推進 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次有給休暇の取得を促す。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を55%以上にする。 【管理職 教頭】〔令和6年度 53.0%〕 	A
<p>取組内容④【7-1 働き方改革の推進 範・力・共】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員の配置を進め、部活動指導における時間の加算を抑え、学校業務に従事する時間の捻出に活用する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日の「部活動指導員配置後の、部活動指導に関わる時間の変化」について「減った」とする旨を回答する顧問教員の割合を100%にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】	
◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進	
取組内容①【6-1 ICTを活用した教育の推進】	【情報委員会 情報委員長】
図書館関係の研修を2月末にできるよう情報委員と図書館担当で調整中。	
取組内容②【6-1 ICTを活用した教育の推進】	【情報委員会 情報委員長】
登録状況率は10月～12月の3か月平均で、1年生58.4%、2年生63.2%、3年生28.2%、学校全体で49.9%である。昨年度の登録状況37.7%より12.2%増加した。	
◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり	
取組内容②【7-1 働き方改革の推進】	【管理職 教頭】
長期休業中や定期テスト期間等を中心に年休を取得する教員が多かった。 1月末までの年休取得率は10日以上が76%(32名)、5日以上が95%(40名)であった。	
取組内容③【7-1 働き方改革の推進】	【管理職 教頭】
合計12の部活動に指導員が配置されており、教員の業務の負担軽減になっている。 また、回答のあった17名のアンケート結果から、平日1日あたりの勤務時間の減少時間は平均約25分であった。	

次年度への改善点	
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】	
◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進	
取組内容①【6-1 ICTを活用した教育の推進】	【情報委員会 情報委員長】
来年度 ICT を活用した業務効率化や負担軽減のための研修を検討していく。	
取組内容②【6-1 ICTを活用した教育の推進】	【情報委員会 情報委員長】
全校集会や学年集会、テスト期間など登録率が低くなる時の声掛けを強化していく。	
◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり	
取組内容②【7-1 働き方改革の推進】	【管理職 教頭】
引き続き、計画的に年休取得を行いながら、リフレッシュを図ってほしい。	
取組内容③【7-1 働き方改革の推進】	【管理職 教頭】
引き続き、教員の負担軽減や時間外勤務の縮小につながるよう、適切に運用していきたい。	